

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に開かれた学校として、時代や社会ニーズに対応し、府民から信頼される農業高校をめざす。

1. 個に応じた確かな学力の定着を図り、実業教育で職業観を養い、同時に「豊かな心」と「生きる力」を育成する。
2. 様々な機関等と連携し、広がりのある教育を展開し、校内と校外との両方の実習活動等を通じて、生徒を育てる。
3. キャリア教育を充実させ、新たな進路先を開拓し、将来に夢を持ち関連産業等で活躍できる人材や農業の担い手を育成する。
4. 農業教育のセンター校的役割を果し、生徒の活動成果等を府民に還元し、食と農、緑と環境保護等、農業への理解を広める。
5. 平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大会大阪府大会に向けて、事務局校として、また、式典・各競技・会議等運営分担の役割を果たす。

2 中期的目標

1 基礎学力の定着と生きる力等の育成

(1) 教育のプロ意識をもって、個に応じた「わかる授業」をめざして、日々授業内容の充実と指導方法の改善等に取り組む。

- ア 少人数展開授業、入り込み授業、個別補習等を充実し、「わかる授業」を展開する。(授業評価で、全科目で生徒理解度 80%以上をめざす)
- イ 新学習指導要領を踏まえ、各教科で教育内容の充実を図り、新しい指導内容等の導入を図る。(教育課程の改定、指導内容とシラバスの充実を図る)
- ウ 各科目の指導内容を工夫・改善し、研究授業や研修受講等を通じて教員の指導力の向上を図る。(パッケージ研修の成果を生かし、授業力向上研修の定着)
- エ 平常授業とは別に、基礎学力・学習力の定着の取り組みを組織的に実施(朝学習・土曜日等活用し、弱点の克服と多面的な総合的な力量を付ける)
- オ 農業クラブ実績、各種資格取得、検定合格、コンテスト入賞等、その指導の徹底と成果を認証する。(アグリマイスター顕彰制度の活用した指導)

(2) 精選した学校行事、特別活動、人権学習等を通して、「協働する心」や「思いやりの心」を育成する。

- ア 年間の学年行事やLHR等を活用して、志学とキャリア教育、人権教育等の指導計画を確立する。(学校行事、特別活動等の目標と計画の明確化を図る)

(3) 学校農業クラブ活動のプロジェクト学習等を通じて、勤労意欲と志を持ち、自ら考え行動する「生きる力」をつける。

- ア 反復した訓練の実習により高い技能を身につけさせ、仕事の役割を体得させ、責任感、勤労観等を養う。(農場実習で技能と勤労観等の徹底育成)
- イ 専門分野等への興味・関心を高め、資格取得、各種大会等に積極的に参加し、自信をつけ意欲を向上させる。(農業クラブ競技会等の積極的参加を推奨)
- ウ 平成 28 年度農業クラブ全国大会の運営の徹底指導及び全国大会各種競技大会の最優秀をめざす指導(学科枠を超えた農業クラブプロジェクト研究指導)

2 相談体制の充実と自己実現の支援

(1) 全生徒・保護者と面談を行い、生徒を取り巻く状況等を把握し、生徒に向き合う指導を徹底する。(生徒実態アンケート実施、面談や相談体制の充実)

(2) 「将来のあり方・生き方」を考えるキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現の支援を図る。(学校紹介就職 100%、希望進学先等の実現)

3 機能的・機動的な運営組織の構築

(1) 教職員が ICT を活用し、データ等の収集・分析・把握に努め、情報を共有し、効率的に運用する。(個別の校務処理システム等本格活用、会議資料 ICT 化等)

(2) 学校を取り巻く様々な状況を把握し、課題発見に努め、迅速に対応できる校務運営組織を構築する。(報告、連絡、相談の徹底とフレキシブルな組織運営)

(3) 全教職員が同じ目標に向かって協力し、チームワークをもって各部署での役割と責務を果たす。(教職員間の意思疎通を図り、チームで課題対応)

(4) 学校活動全般に PDCA を定着させ、逐次総括で課題を分析し、次の行動に反映する。(直後の課題分析、結果を次に生かして深化する運営をめざす)

4 広がりのある教育の展開と情報発信

(1) PTA、同窓会との連携による生徒支援の取組みを推進する。(授業公開、生徒指導協力、生徒講演会、進路先開拓等協力、H29 創立 100 周年記念の準備)

(2) 外部の機関等と連携し、生徒が校外でも活躍できる場を設定し、校内と校外とで生徒を育てる。(実社会での体験活動により、生徒に自信とやる気を育成)

(3) 新しい分野の教育内容(環境、健康、福祉、知的財産、他産業との連携等)を農業教育に導入する。(農業の 6 次産業化等を視野に、新分野の教育も展開)

(4) オール大阪の農業教育ネットワーク(農林行政、大学、企業、農家、農事法人、教委等)を構築する。(都市の中での農業教育をコラボで、進展させる)

(5) 学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成(ポスター、DVD)、HP 更新、報道提供と取材受入れ等。(府民・入学希望者等へ学校情報の積極的な発信)

5 地域の農業高校として、社会的な貢献

(1) 府民ニーズを踏まえ、生徒の活動を通じた地域貢献、学校資産を地域に還元。(農業教育センター校、食育推進、農業体験の受入れ、地域イベント協力等)

(2) 平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大会の事務局校として、開催の計画と準備等を推進する。(H26 実施大綱を深化して、H27 に大会要項を全国に発信)

(3) 農業教育機関等とのネットワークを構築し、大阪府内の農業教育全般の役割分担を明確にし、オール大阪農業教育体制を確立する。(関係者会議の実施)

(4) 時代に対応した新たな教育内容と基礎実習の充実に向けて、農場等の将来計画を策定し、産振施設・設備等の充実を図る。(農場の将来計画構築策定等)

(5) 「大阪における農業教育のあり方」提言(H25.3)を踏まえ、大阪の都市農業を担い、農から食とみどりをクリエイトする人材の育成をめざし、社会状況や地域のニーズに対応した農と食を繋ぐ新たな学びを創出するカリキュラムを編成するとともに、将来の学科の改編を検討し、関係部局と調整を図りながら、平成 30 年度以降を目途に学科改編にむけた準備を進める。(H27~具体的なスケジュール等を検討)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から実施の「朝学習」「土曜日授業・活用」について、生徒・保護者とも肯定的な回答であるが、生徒の役立っているという評価は 1 年生 60%弱であったが、高学年で低い。実施形態・内容等、本年度の検証を次年度に生かす必要がある。1 年生で実施している国・数・英の少人数展開授業に対しては、75%が効果的と回答しており、継続するとともに、全体的に授業改善の取り組みを進める必要があると思われる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般については、生徒、保護者ともに高い評価で、楽しく充実していると回答しているが、放課後のクラブ活動の充実には 1 年生のみ 42%で、個人差もあるが、もっと改善の余地があると思われる。 ・キャリア教育の充実に対する肯定率は学年進行で高く、計画的かつ丁寧な進路指導を実施した取組効果がでているので、継続したい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員はすべてに肯定的な評価であるが、施設・設備等の老朽化に半数が満足できないと回答しており、計画的な改修等が必要である。 ・校内の業務の総量増えることが避けられないなか、校内研修時間も確保しにくく、全教職員による情報共有の一層の推進が望まれる。 	<p>第 1 回 (7/1 実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価と学校経営計画、スーパー食育スクールの指定について <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習は定着し、成績に反映することで、昨年より集中している。ファローが大切。 ・勉強は積み上げが大事、SSS 事業でも基礎を身につけ、更に生徒を伸ばしてほしい。 ・診断テストで学習成果が出ているが、結果の出ない生徒にも分かるまで指導を望む。 ・農業大学校との連携等で、就農等につなげるよう、行政としても応援していきたい。 <p>第 2 回 (11/27 実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スーパー食育スクール事業の進捗、第 1 回授業アンケートの結果、進路状況中間報告 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の HP にアップしているが、大阪食育フェスタにも参加、健康ノートも作成した。 ・小中よりも高校では食事と健康面も意識的にできる。病院からコラボの話もある。 ・授業アンケートの分かる授業の目標値は達成したが、様々な工夫を更に広げたい。 ・朝学習や食育活動で遅刻者の減少もめざしているが、朝食率の向上と結果に期待したい。 ・進路は就職 2 割で、職を意識した専門学校、大学進学が増え、国公立大も 6 名合格。 <p>第 3 回 (2/3 実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校経営計画及び学校評価、授業評価、学校教育自己診断結果等について <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習が定着し、遅刻者数も減った。大変だが、取組みを継続して実施してほしい。 ・授業評価で生徒の理解度を重視してみている。80%を超えたことは評価できる。 ・昨年度と同様今年度も進路実績は良かった。今後も指導を継続してほしい。 ・動物に関する産業は上向き傾向にある。新たな分野に対応できる人材育成を望む。

府立農芸高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の定着と生きる力等の育成	<p>(1) 個に応じた基礎学力の定着</p> <p>ア わかる授業の実施 イ 授業評価の活用 ウ 授業力の向上 エ 基礎学力の定着 オ 資格取得等</p> <p>(2) 「豊かな心」と「生きる力」の育成 ア 「生きる力」の育成 イ 「協働する心」と「思いやりの心」を育成</p>	<p>(1) ア・国、数、英で少人数展開授業や入り込み授業、全教科・科目で、個別補習を実施 イ・授業アンケートを実施(1・2学期末2回) ウ・授業力向上のために、パッケージ研修で得た本校のめざす授業評価票で授業観察と指導実施 ・学校として、授業研究交流とグループ学習等共に学ぶ授業の推進により、授業改善する。 エ・学習力の向上をめざす朝学習(3→5教科) ・朝読(課業日)の実施(H27 新校時表で実施) ・土曜日授業(9日)・活用(2日)等で、基礎力診断テスト(2回)、実習、補習、考查、キャリア講習会(2回)等を実施。 オ・アグリマイスター顕彰制度金賞をめざす指導体制の確立と資格検定指導の推奨 ・図書館等の整備と学習環境の充実</p> <p>(2) ア・農業クラブ活動等を通じて「自ら考え行動する力」を育成。全国大会をめざし競技会等にも積極的に参加し、校外活動で、自信を持たせ、学習意欲を向上させる。 イ・学校行事、特別活動、人権学習、実習を通じて「協働する心」と「思いやりの心」を育成 ・LHR、特別活動の指導内容を精査し、年間計画を明確化</p>	<p>(1) ア・展開実績、授業評価等 イ・授業アンケートにおける授業理解度全教科平均値(H26 78.5→80%) ウ・公開研究授業の実施(H26 4回→6回)管理職による授業評価面談等 エ・実施内容と学習成果 学校教育自己診断結果(H26 朝学前年度2年 57→70%以上に、全生徒遅刻 4991→3500 以下に) オ・指導体制確立と顕彰受賞者の成果等 ・図書館の整備状況等</p> <p>(2) ア・農業クラブ大会等の成果、地域交流活動実績 ・自己診断の意欲値(H26 2年 54→70%以上)等 イ・人権アンケート、学校教育自己診断結果 人権学習機会(H26 2年 63→70%以上等)</p>	<p>(1) ア・農業科では少人数の実習、国・数・英では1/3～1/2で展開や入込授業を実施した。(○) ・昨年度に引き続き、次年度から教育課程を見直し、特に普通科において、国数英の時間増等、進路に対応する視点での第2段階の改定をした。(◎) イ・授業アンケートの理解度全教科平均値 H25 77.7% H26 78.5% H27 目標の80%に達した。ペア学習の導入も増え、さらにグループ学習等で、アクティブラーニングをめざし、より分かる授業の実現を目標としたい。(○) ウ・初任者を中心に公開授業研究を3回実施したが、他の校務に追われ、時間の設定も難しかった。(△)、本校版授業観察シートを使用し、管理職による授業評価は全教員に配布した。各教員の指導法の工夫は着実に進行している。(○) エ・2年目の朝学習は、昨年の3教科から5教科にし、授業でもフォローし、成績にも反映することとし、業間時間もゆとりを持たせた。前向き度も1年生で88%、2年生で73%、3年生68%となり、完全に定着した。朝読時間も集中して静かに取り組んでいる。さらに継続して、よい取組みに仕上げたい。(○) ・土曜日授業や活用は、昨年度の反省を踏まえ実施したが、授業とする方が生徒の出席率は高い。(○)但し、このための教員の勤務管理の業務が煩雑である。活用とする方がフレキシブルな運用もでき、それぞれの利点を併用したい。次年度は農業クラブ全国大会の運営業務が、休日も含め、生徒・教員ともに増えるので、実施回数は減らしたい。 ・遅刻多い生徒は限られているが、様々な取組を通じて4月～12月の遅刻総数は昨年の3455から1797に大幅な減少ができた。(◎) オ・全国農業校長協会認定のアグリマイスター顕彰制度の活用も今年度からの取組みであったが、各科に配置した担当者が精力的に動き、5名の生徒が取得した。初年としては良く頑張った。農業クラブ特級位、各種専門資格、ワープロ検定、英語検定、数学検定等、取得実績有(◎) ・図書館の古い書籍の入れ替え、検索システムも入力が進み、活用しやすい環境になった。(○)</p> <p>(2) ア・農ク大阪大会、近畿大会、全国産業教育フェアでも活躍、農芸ブランド生産物を百貨店等で販売、近所のうどん店エコ飼料を活用した豚肉とコラボメニュー提供(新聞各社報道)、農芸産レトルトカレーも開発中、関空・堺市役所花壇等装飾、一日カフェ経営、ふれあい動物園活動、アイガモ肉生産企業連携、堺健康フェア参加、「農芸牛乳」初の校外販売(3・19～)、酪農教育ファーム等の小中食育交流等活発に活動等それぞれの専門を生かした取り組みが数多く実施できた。(◎) ・生徒の農業クラブ活動へやりがい等は、1年生80%、2年生62%、3年生65%と高評価であるが、高学年になるほど、やや減少傾向にある。3年間農ク活動に打ち込む生徒と、途中で他への興味・関心が高くなる生徒に分かれる傾向もみられる。 イ・学校行事(体育祭、農芸祭・収穫祭、施設訪問、人権学習等)については、楽しさへの工夫の評価で、1年86%、2年62%、3年56%である。上級性になると企画運営の責任の要素もあり、楽しさはやや減る傾向がみられる。 ・ホームルームの活動の活発度は1年55%、2年44%、3年35%で、進路行事や学年行事、アンケート記入等が多く、クラス独自の活動が低迷していることを示している。(△) 今後も特別活動の工夫・改善し、実施していく。</p>

府立農芸高等学校

<p>2 相談体制の充実と自己実現の支援</p>	<p>(1) 生徒理解促進のための相談体制の充実と生徒と向き合う指導実践 (2) 自己実現を支援する進路指導体制の確立と個々の進路自己実現の支援</p>	<p>(1) ・いじめ等調査(年2回)、生徒実態調査(学校独自1回)実施、結果を課題分析し、職員で分析結果を共有し、生徒指導全般に活用する。 ・保健部・生活指導部の相談体制の連携、相談室、学年、専門科でも相談体制を強化。 (2) ・教育課程(H27用)をさらに継続して検討。 ・各担任は全生徒・保護者と懇談し、1年次から進路希望状況を把握し、学年、専門各科と進路指導部の連携を強化。3年間の進路指導年間計画を核に、特別活動、教科等でも「将来の在り方・生き方」を考えるキャリア指導を実施する。 ・進路実現にむけた個別補習指導(教科指導、小論文、面接)等の実施 ・農業科関係の資格・検定の取得指導以外に、数研、英検、作文コンテスト等、普通教科においても、様々な資格・検定等の指導を推進する。 ・農業クラブと生徒会クラブの活動を通じて生徒の成就観・達成感を育成する。</p>	<p>(1) ・生徒実態調査等の実施結果分析、その対応実績 ・教育相談件数(SC H26 85人)と適宜対応、組織的な連携状況等 (2) ・教育課程の継続審議状況 ・担任の懇談状況(年2回以上)と学年、専門科と進路指導部の連携、キャリアガイダンス実施状況、個別指導実績 ・新規進路先等開拓実績(H26 新規指定求人7社増→新規追加) ・卒業時の進路実績等(就職内定率H26 100%、国公立農学部等の進学者数 H26 7名 実績維持等) ・資格、コンテスト参加成果等</p>	<p>(1) ・いじめ調査は年2回実施し、問題の把握に努めているが、特段の記入はなかった。本校独自でも生徒実態調査も年1回実施している。少しでも気になることがあれば、必ず調査し対応することとしている。また、データは分析し指導に活用している。(○) ・最近SNS上の安易な書き込みが多く、機会ごとに集会や講演等を計画しているが、深く考えない行動が目立つ。もっと効果的な指導を模索している(△) ・SCによる教育相談職員研修「生徒のコミュニケーション能力向上について」(8/25)実施、相談件数(SC相談者約59名)、生徒に相談窓口の徹底(プリント、掲示等)、各季節定期以外に保健便り等をタイムリーに配布もしている。今後とも相談体制を継続し、参加しやすい形態をめざしたい。(○) (2) ・今年度用の教育課程をさらに踏み込み検討して、進路対応と学力育成をめざして再改定した。(○) ・懇談習慣も設定し、担任の個別懇談状況(年2回以上)、1年次から計画的な進路指導計画(進学・就職ガイダンス、各種説明会、面接練習、進路講話、企業見学等)により実施。担任・学年、専門科と進路指導部の連携は進んだが、システム化した指導体制には、まだ改善の余地がある。(○) ・土曜日授業等で、全体にキャリア講演会が実施できた。学年、学科単位でも取り組めた。(○) ・新規の求人事業所も20社程度増え、学校紹介を希望の就職決定は11月末に100%決定した。 ・学科での徹底した指導等により、今年も国公立農学部6名、私学大農学関係30名以上、専門学校64名、農業大学校10名進学した。公務員6名等全員希望通り決定した。(◎) 今後改革をさらに進め、時代に対応した学科改編と進路先と指導体制をリンクして検討を進めたい。</p>
<p>3 機能的・機動的な運営組織の構築</p>	<p>(1) 機能的、機動的な学校運営組織の構築 ア 校務組織等の再構築 イ PDCAサイクルの定着と教職員の対応力の強化 ウ 統合ICT活用</p>	<p>ア・学校教育自己診断結果や学校協議会等の提言を学校運営計画に反映する。 ・校内の内規(H26改定)の随時見直しの実施。 ・再任用職員の増加、農業クラブ大阪大会事務局校、学校改革等の課題を踏まえ、学校全体で業務量を均一に分担できる組織体制を組む。 イ・各行事等が終わる毎にアンケート集約し、改善案を作成する。H26総括を次年度へ反映させ、学校運営全般にわたりPDCAサイクルのさらなる定着を図る。 ・課題対応行動チェックマニュアルの作成検討 ウ・統合ICTによる校務処理システムの課題整理と有効活用、校内情報の伝達、共有化の推進。</p>	<p>ア・内規の継続検討状況 ・首席の業務内容の再構築と業務遂行状況に応じた組織改善実績等 イ・逐次及び年度末総括(PDCA会議)の開催状況とその改善の状況等 ウ・校内検討組織の確立、統合ICTによる校務処理システムの課題整理状況と関係者の連携による活用の深化、情報共有状況等</p>	<p>ア・学校教育自己診断結果、学校協議会の提言を踏まえ、首席、指導教諭で新校務を分担しながら、学校全体として、ほぼ計画通り実施できた。(○) ・校内の内規の不具合は各分掌でその都度不具合を見直し、校務分担については、校長ヒアリングにより校務分担を決定する。H28農業クラブ大阪大会事務局業務、各チーフ担当等本格的に業務量が増大するので、1年間の追加人員を大阪府の農業校長会としても要望した。H29の100周年事業も翌年に迫ってきており、これらを頭において、学校組織をより効率的に見直し、全職員で対応できる校務分担の検討を継続している。(○) イ・各行事等終了後、逐次アンケート等実施するなど、直後の総括と、年度末に各部署からの提案を持ち寄り、全職員で学校全体として検討し次年度に改善するPDCAサイクルはほぼ機能している。(○) ・逐次発生した諸課題等を、組織として、問題解決に向けて迅速に行動できる点では、まだ改善点がある。OJTで個々の教員の力量を高め、行動のチェックマニュアルの作成と研修会も実施したい。(△) ウ・職員研修会等を実施し、新たな校務処理システムのスムーズな運用ができた。(○) ・教職員のICT活用が進んでいない。LAN教室の授業と同様に、教室での活用も含め検討したい。(△)</p>

府立農芸高等学校

<p>4 広がりのある教育の展開と情報発信</p>	<p>(1) ア P T Aや同窓会組織との連携 イ 外部機関等と連携し、広がりのある教育の展開 (2) ア 学校情報の外部への発信</p>	<p>(1) ア・P T A、同窓会の協力で生徒の活動を支援する取組みを推進する。P T A携帯ネット情報発信推進、H29 創立 100 周年記念事業実行委員会組織と連携した学校教育環境整備。 イ・農業クラブ活動等を通じて、地域や外部の機関等と連携し、生徒が校外で活躍できる実習を数多く設定し、実体験活動により生徒に自信をつけさせ、学習意欲の向上をめざす。 (2) ア・校内見学会、体験入学会の効率的な実施、ホームページの更新、生徒活動の報道提供、中学校への訪問、農芸グッズや DVD の新規作成、活動資料等の配布、外部説明会の参加など、逐次、学校情報をより積極的に外部へ発信する。</p>	<p>(1) ア・P T A、同窓会等と連携した取組みの実績等 イ・生徒の校外活動等の推進状況とその成果等 ・学校教育自己診断の生徒地域交流機会値 (H26 3 年 65 → 75%)に等 (2) ア・広報チームの組織化、H P の更新 (月 1 回以上)、学校紹介 D V D 等の新規作成及び配付実績、校内説明会開催実績、校外説明会参加・中学校訪問実績等</p>	<p>(1) ア・P T A 生徒活動支援等の活用、P T A 共催講演会の実施、同窓会生徒研究活動支援等の活用等より、生徒活動の側面的支援となり、生徒活動が活性化に寄与している。創立 100 周年祈念に向けた実行委員会が発足し概要と予算案も決定した。 また、平成 28 年度農業クラブ全国大阪大会の同窓会支援の体制も継続できている。(◎) イ・生徒の校外活動等の推進状況としては、昨年に引き続き以下例の様々な取組みが実践された。 (前述) 産業教育振興作文などで成果を発表し、各種入賞実績有。各学科で地域連携の取組みを推進し、生徒の活動が T V や新聞等で報道され、生徒の学習意欲がさらに向上。3 年生の地域交流機会度は昨年とほぼ同値の 63%に留まったが、実験・実習等の生徒満足値 (1 年 91%、2 年 80%、3 年 70%) は高評価である。(◎) (2) ア・3 年前に年度当初に H P の構造をシンプルにリニューアルしたままで、必要な情報等は更新は適宜しているが、農業クラブ全国大会を契機に刷新したい。まだまだ、改善の余地が多い。(△) 学校紹介 D V D 等は学校案内とともに来校中学生等に全員配布した。最近の T V 報道も入れて再編集を検討している。学校説明会 (6 月)・体験入学会 (11 月)に加え 12 月にも説明会Ⅱを実施し、個別訪問にも対応した。校外の進学説明会参加 (約 20 回)、中学校訪問など広報活動に努めたが、府内全体に広く知られていないので、今後も効果的で理解の得られるよう工夫した取組みを実施したい。(○)</p>
<p>5 地域の農業高校として社会的な貢献</p>	<p>(1) 府民ニーズを踏まえ、大阪府の農業高校としての役割を果たす。 ア 地域連携と学校資産活用 イ H28 農業クラブ全国大会準備 ウ 農業の担い手等の育成 エ 農場等の将来計画と学科改編案を策定</p>	<p>ア・学校資産を活用し、農業教育のセンター校として、食育推進、生産物販売、講習会開催、見学受入、地域プラント開発、緑化協力、イベント参加協力等を実施し、生徒を育成。(通年) イ・平成 28 年度日本学校農業クラブ連盟全国大阪大会、全国農業高校校長協会の大阪府開催のため、事務局校として、府内、近畿、全国の高校や関係機関、文科省、教委等と逐次調整し、実行委員会組織・委員会組織等を逐次設立し、計画的な準備を推進する。 ・生徒実行員会等の活性化を図るため、昨年に引き続き、大阪府の学校経営推進費事業に応募する。 ウ・府環境農林水産部、農業大学校と連携して、担い手育成、新たな就農先の開拓を推進。 エ・「今後の大阪における農業教育のあり方」提言による時代に対応した教育内容の構築、将来の学科の改編にむけ、校内検討委員会で検討を重ね、教育内容の改編等、できることから実行していく。 ・施設充実 (繁殖豚舎改築等) を図る。 ・国のスーパー食育スクール (S S S) 事業の受託をめざし、食育教育を推進する。</p>	<p>ア・種々の取組みの推進状況とその成果等 イ・府内準備会開催実績と準備の進捗状況 (前年のプレ大会の実施、全国への発信内容等) ・学校経営推進費事業の受託と有効活用状況 ウ・大阪府都市農業参入促進連絡会等の参加や農業自営や農業関連産業への自己実現支援実績、農業大学校等への進学実績等 エ・教育施設の充実の取組みと農場等の将来計画と改善、及び学科改編に向けて教育課程や指導体制の見直しの進捗状況等 ・施設改修予算の効果的な運用と教育内容の進展状況 ・S S S 事業の受託と進捗状況</p>	<p>ア・美原区適応指導教室農業体験活動支援、美原区朝市、堺市農業祭、金岡地区田植え体験事業参加、府教育センター農業実技研修等受入れ、美加の台中学校、美原小、黒山小、美原西小等食育活動等の交流、大阪府立大学と性教育連携 8 年継続、知的財産教育先進県の農業高校と交流し教員講師派遣等を実施し、生徒がより積極的に活動するようになってきている。今年は美原西小学校の栄養教諭により高校生への授業が実現したが、今後時間調整ができれば、美原区小中学校との職員間の授業見学交流も検討したい。(◎) イ・府内準備会開催実績 (年度内 11 回実施)。実施情報収集とともに、各校の役割分担により進捗状況報告、実施大綱 (素案) を策定した。近畿府県の農業校長会、農業教育研究会、農業クラブ各府県連盟に提案。全国組織とも調整継続、次年度以降実行員会、生徒委員会等組織し、計画的に具体的な取組みを着々と進めていく。(◎) ウ・大阪府都市農業参入促進連絡会等に継続参加、親会議は 5 月に延期。環境農林水産部の諸機関と連携し、農業大学校と逐次情報交換し、進路先として協力して農業関連人材を育成する。(○) エ・繁殖豚舎の改修が完了した。次年度は育成豚舎を予定している。大阪産「農芸ポーク」飼育環境の整備により、環境リサイクル餌活用、企業連携等次のプロジェクト研究に広がり期待できる。(◎) 「今後の大阪における農業教育のあり方」の提言に従って、新しい時代に対応した大阪独自の魅力ある農業の学科と教育内容の充実に向けて、校内の検討を再開したが、議論の時間が不足して結論までに至らなかった。今後、農場等の将来計画及び学科改編案の策定等にむけて検討を深めたい。(△) 今年度は国のスーパー食育スクール (S S S) 事業の指定を受けた。H P にもその進捗状況をアップした。2 月 26 日に実践報告会、報告書もまとめる。初年度としてはやれることはすべて実施した。(◎) 次年度も継続できるよう、応募している。</p>